

第 59 回地域農林経済学会大会のご案内

2009 年 7 月 6 日
地域農林経済学会

第 59 回地域農林経済学会大会を下記の要領で開催します。今大会では、会員の皆様のご参加を期待することはもとより、非会員の皆様のご参加も大いに歓迎いたしております。

1. 期 日 2009 年 10 月 24 日(土)～25 日(日)

2. 日程および会場

2-1. 開催地：高崎市立高崎経済大学

住所 〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町 1300 番地

連絡先 片岡美喜 027-344-7604 m-kataoka@tcue.ac.jp

2-2. 日程

【第 1 日】10 月 24 日(土) 大会シンポジウム他

1. 大会シンポジウム[10:30～17:00] (高崎経済大学 7 号館 731 教室)
(受付開始 9:30)
2. 総会[14:00～15:00] (高崎経済大学 7 号館 731 教室)
3. 懇親会[17:30～19:30] (高崎経済大学 7 号館 1 階 生協食堂)

【第 2 日】10 月 25 日(日) 個別報告(高崎経済大学 6 号館)

【その他】

10 月 23 日

編集委員会：10 月 23 日(金) [14:00～16:00]

支部代表連絡会議：10 月 23 日(金) [15:00～16:00]

理事会：10 月 23 日(金) [16:00～18:00]

以上すべての会議の開催場所：高崎アーバンホテル 10 階 高崎経済大学サテライトキャンパス・会議室

* 大会会場の地図・交通案内等は、後掲【付 - 1】をご参照ください。

2-3. 参加費用等

- 大会参加費用(報告要旨代を含む)：一般会員 4,500 円、学生会員 2,500 円、
非会員 1,000 円
- 懇親会費：一般会員および一般非会員 4,500 円、学生会員および学生非会員 3,000 円

円

（懇親会は、24日の大会シンポジウム終了後に開催されますが、若手研究者をはじめ、皆様の積極的な参加を期待しています。懇親会の参加申し込みについては、下記5（3）を参照してください）

3．大会シンポジウム 10月24日（土）[10：30～17：00]

—後援：産経新聞社・上毛新聞社—

共通論題：「地域ブランドの可能性と限界—食料産業の恵みを市民社会へ—」

座長解題

座長：岸本 喜樹朗（桃山学院大学）

この2年間連続して、われわれは、「地域の豊かさをどう把握し、どう発展させるか」について議論を深めてきた。この切り口の1つとして、本年度のシンポジウムでは、「地域ブランド」を取り上げ、これまでの議論をさらに膨らませたい。

食品をはじめ、多くの品目で「地域ブランドづくり」が日本全国各地で盛んに行われている。生産・流通ばかりでなく、地域団体商標の登録・申請や、それに対する商標権などをめぐる制度的枠組みも整備されてきている。これらの取り組みによって、それぞれの産品の付加価値を増大させ、また、認知度を高めることにより、需要の拡大が実現してきているというポジティブな動きがある一方で、「地域ブランド」を創造したといっても名称やロゴを決めただけでなんらプラスの効果が現れず困惑の度を高めている産地もみられる。

食品の地域ブランドをめぐる問題を検証することは、「地域」「農林」「経済」をキーワードに持つ地域農林経済学会では、一度は取り組んでおかななくてはならないものであろう。そこで、これまでの学会と産業界との地域ブランドへの取り組みを総括し、今後を展望するようなシンポジウムを開催するに至ったものである。

座長（岸本）の、食品マーケティング研究を踏まえた解題を受けて、

第1報告（斎藤）では、これまでの同氏を中心にした地域ブランドに関する研究蓄積から、地域ブランドの実践的課題と地域ブランド形成・維持の理論的枠組みを提示する。

第2報告（清水）では、小売業での展開事例を踏まえて、食品地域ブランドの流通の実像を明らかにするとともに、流通からみた地域ブランドへの期待と限界を示す。

第3報告（青谷）では、これまでの同氏のブランド研究の蓄積を踏まえて、消費者視点からみた地域ブランドの意義と課題を明らかにする。

第4報告（胡）では、あえて、地域ブランド形成の困難な産地を意識し、産地の生き残りや農村活性化における地域ブランドの有効性を検証するとともに、地域ブランドを持た

ない産地、こうした産地を抱える地域の活性化の可能性と条件について検討する。

第1報告 斎藤 修（千葉大学）

「地域ブランドをめぐる戦略的課題と管理体系」

第2報告 清水 正博（イズミヤ総研）

「小売業における地域ブランドの導入と展開 - イズミヤの取り組む「大阪産（もん）野菜」を中心として—」

第3報告 青谷 実知代（神戸松蔭女子学院大学）

「地域ブランドをめぐる消費者行動の行方と取組課題」

第4報告 胡 柏（愛媛大学）

「地域ブランド形成の困難な産地の活性化戦略 - 食と農を軸とする豊かな地域社会と穏やかな暮らしの形成に関する展望—」

総括コメンテーター 平田篤洲（産経新聞東京本社企画事業局）

佐藤正秀（J A高崎経済部）

4．個別報告 10月25日（日）[9：30～15：30]

個人・連名報告は1件につき、30分（報告20分、質疑応答10分）を予定しています。筆頭報告者には、会員の資格が必要*です。非会員の方には、入会関係書類を送付しますので、至急、学会事務局までお申し出ください（学会HPからのダウンロードも可能です）。また、同一筆頭報告者による報告は一報告に限りますので、ご注意ください。

*学会当日までに、入会金と年会費の納入が必要です。

個別報告の申し込み方法については、後掲【付 - 2】を参照してください。特に、**従来とは方法が異なる点がありますので、十分に注意してください。**

科学研究費などの共同研究者が、それぞれ、報告し、議論を深めるための取り組みとして、「グループ報告」を受け付けます。たとえば、5名で報告する場合、2時間程度の枠を取り、その範囲で座長の進行により議論を深めます。「**グループ報告**」、ご希望の場合、個別報告とは別に、a)代表者名・所属・連絡先、b)共通論題・全体の概要、c)各報告者名・報告テーマを、企画担当理事（京都大学大学院農学研究科・福井清一：seifukui@kais.kyoto-u.ac.jp）宛て、メールで8月17日までにご連絡ください。

5．その他連絡事項

（1）宿泊について

事務局では斡旋いたしませんので、各自でご予約ください。宿泊には、大学へのバス（群馬バス系、市営バス系）が多く出ている、JR 高崎駅周辺のホテルが便利です。

なお、ご宿泊などのご相談がある場合は、高崎経済大学生協までご連絡下さい。

連絡先

高崎経済大学生協生活協同組合プレイガイド（群馬県知事登録旅行業 第3-353）

担当：丸山智晴（総合旅行業務取扱管理者）

〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町1300

TEL 027-343-2024 / FAX 027-343-8790

mail:tcuecoop@gmail.com

（２）昼食について

昼食は、第1日目（10月24日）第2日目（10月25日）両日とも、大学内7号館1階の食堂を営業しておりますので是非ご利用下さい。

（３）懇親会の申し込みについて

懇親会への参加を希望する方は、食事・飲み物類の準備の都合から、出来る限り事前にお申し込み下さいますようご協力お願い申し上げます。申し込みは、e-mailにて下記の要領でご連絡下さい。

宛先：m-kataoka@tcue.ac.jp（片岡美喜宛て）

メールの件名：懇親会申し込み

メール本文：氏名、所属、連絡先住所、連絡先電話番号

（同じ所属機関で、複数名を取りまとめてお送り頂いても構いません）

申し込み期日：10月15日（木）

（４）新型インフルエンザ流行時の対応について

新型インフルエンザの流行に伴い、開催校の休校・閉鎖等の措置によって全国大会の実施に影響がでると予想される場合の学会の対応については、ホームページ（<http://www.soc.nii.ac.jp/arfe/>）上に掲載しますので、随時ご確認ください。

【付 - 1】

高崎経済大学への交通手段について

１）路線バス

JR 高崎駅西口からバスを利用すると、路線により異なりますが、15分から25分で到着します。いずれの路線も「経済大学前」で下車してください

市内循環バス ぐるりん（片道200円）

4番バス乗り場「高経大線・経大先回り」乗車

* バスの運行時間は、「市内循環バスぐるりん」でご検索下さい。

群馬バス（片道290円）

2番バス乗り場「本郷経由室田行」「沖経由箕郷行」「榛名湖行」のいずれかに乗車

* バスの運行時間は、群馬バス（<http://www.gunbus.co.jp/>）をご参照下さい。

（注）日曜日の早朝は、バスの便が少なくなります。事前に上記ホームページなどでご

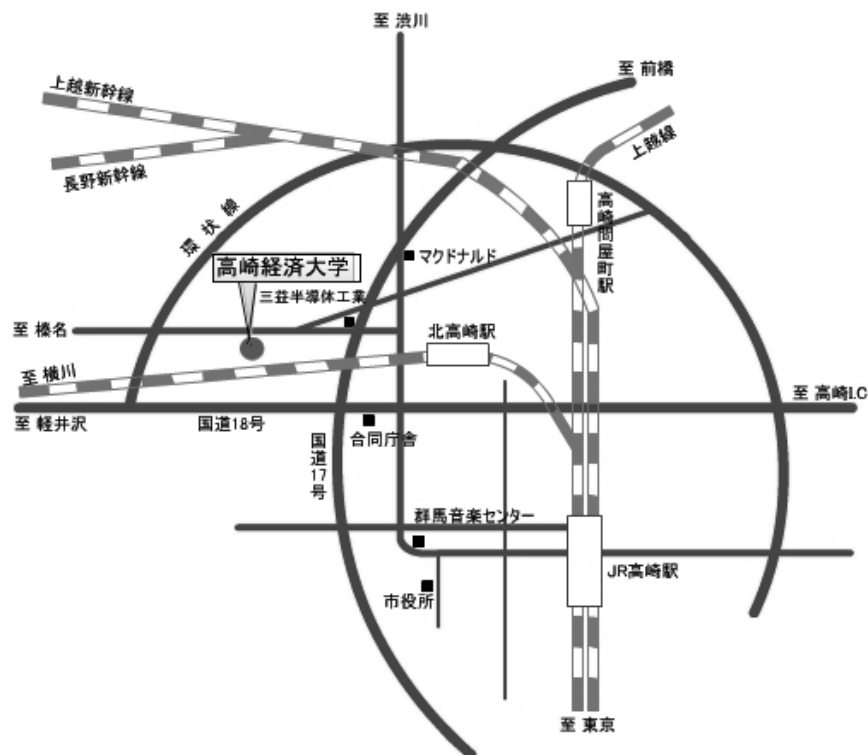
確認の上、お越してください。

2) タクシー

高崎駅西口のタクシー乗り場から、約 15 分で大学に到着します（約 1500 円）。

高崎経済大学アクセスマップ

大学周辺の地図



大学構内図



開催校からのお知らせ

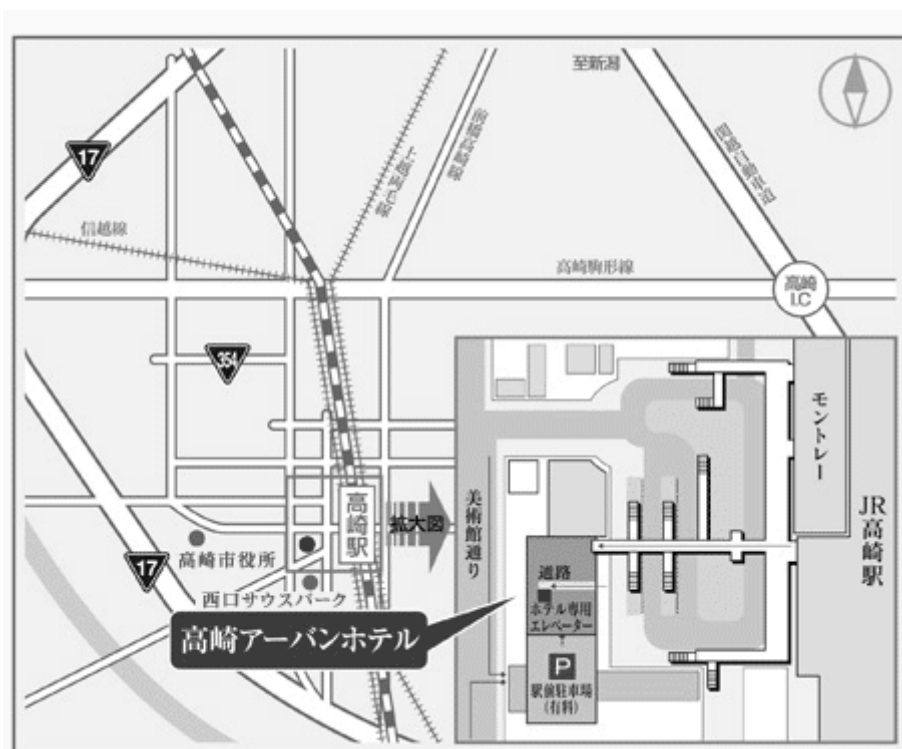
学会開催前日の 23 日に、本学大学院 GP の関連事業として、第 5 回アジア地域政策国際シンポジウムが開催されます。今年度の大会メインテーマは、「グローバル時代における地域政策の現状と課題～地域政策学の確立を目指して～」です。

時間は、メイン・シンポジウムは、大学内附属図書館ホールにて 9:15～12:00、分科会は大学内会場にて 13:30～16:30 となっております。分科会では、農業・農村をテーマにした会場も設置する予定です。

地域農林経済学会会員の方で興味のある方は、是非ご参加ください。（事前申し込みは必要ありません）

23 日の会議場所について

高崎アーバンホテル（群馬県高崎市八島町 5 8 - 1 ）10 階



JR 高崎駅西口より徒歩 1 分ペディストリアンデッキより直接ホテルへ入れます。
フロントは建物ビル 10F になります。ホテル専用エレベーターにてお越し下さい。

【付 - 2】個別報告の要旨原稿の様式・申し込み方法、個別報告論文投稿に際しての注意事項などについて

（１）様式

本学会 H P（<http://www.soc.nii.ac.jp/arfe/>）にあるフォーマット（一太郎版、ワード版）をダウンロードして下さい。

必ずワープロで作成してください。

昨年度より、個別報告要旨を「大会報告要旨」には収録しておりません。個別報告要旨は学会ＨＰにアップし、大会期間中は受付場所で閲覧できるようにしておきます。

個別報告の申し込み用ファイルとパワーポイント用ファイルの送付先が異なっていますので、注意してください。

（２）申し込み方法

個別報告希望者は、**８月１７日（月）必着**で、以下の および の書類を、本学会 HP にあるフォーマット（一太郎版、ワード版）をダウンロードして、下記の企画担当理事・横溝宛へ、郵送で提出して下さい。併せて、**報告要旨のファイルをＰＤＦファイルに変換した電子媒体を、企画担当理事・横溝のアドレスへ、メールに添付して送付して下さい**（なお、ＰＤＦファイルに変換出来ない場合は、一太郎またはワードでのファイルを受け付けます。）

< 提出すべき書類 >

）報告要旨：３部

）個別報告申請票：１部

）報告要旨の電子媒体（ＰＤＦファイル）

（ＰＤＦファイルに変換出来ない場合、一太郎またはワードでも受け付けます。）

* 報告要旨に加えて、「個別報告申請票」を提出していただくことになりますので、ご注意ください。

< 書類およびＰＤＦファイルの送付先 >

a) および の書類の送付先

〒700-8530 岡山市北区津島中１－１－１ 岡山大学農学部

横溝 功（企画担当理事）

b) の電子媒体の送付先

yokomizo@cc.okayama-u.ac.jp

個別報告のプレゼンテーションは、パワーポイントあるいはＰＤＦファイルを使用する場合は、個別報告会場に備え付けのプロジェクターとＰＣで報告していただきます（紙媒体を用いる場合は、従来通り、聴講者数分の部数を用意して、当日報告会場に持参してください）。ＰＣのＯＳは、Windows XP、パワーポイント用ソフトは、オフィス 2003、あるいは、2007、ＰＤＦ用ソフトは、Adobe Reader v.9 です。送付される前に、上記のＯＳ、ソフトで使用可能か、必ずご確認のうえ、お送

り下さい。 パワーポイント、PDFファイルのプレゼンテーション用原稿は、混乱を避けるため、10月22日(木)正午までに、企画担当理事・福井宛て(下記参照)に送付していただくか、間に合わない場合には、10月24日(土)の午後5時までに、大会受付まで、フラッシュメモリー、CD等を持参してください。

<パワーポイント、PDFファイル電子媒体の送付先>

京都大学大学院農学研究科・福井清一(企画担当理事): seifukui@kais.kyoto-u.ac.jp

(3) 個別報告論文として投稿を希望する方へ

「個別報告論文投稿要領」(下記)の2.にしたがって、10月17日(土)(消印有効)までに、「大会前提出原稿」を個別報告座長*および学会編集委員会(個別報告論文投稿要領)の末尾に掲載)の両方宛てに1部ずつ郵送して下さい(片方のみへの郵送、電子メールの受付は認められませんので、ご注意ください)。

* 個別報告座長については、学会HPで確認してください(9月初旬掲載予定)。

* 個別報告の「申し込み」や「大会前提出原稿」に関するお問い合わせは、本状末尾をご覧ください。

連名報告での報告者の順位と、個別報告論文での著者の順位は、同じでなければなりませんので、ご注意ください。

「地域農林経済学大会個別報告論文投稿要領」

1. 投稿資格および掲載料

投稿者は本会の正会員(学生会員を含む)および名誉会員に限る。ただし筆頭者以外の共同執筆者に非会員を含むことはさしつかえない。また当年度の地域農林経済学会大会における個別報告者で、「大会前提出原稿」(2.を参照)を提出した者に限る。

審査(7.を参照)により掲載を許された者は、下表の掲載料(別刷30部の代金も含む。30部以上希望する場合は、別途印刷実費負担が必要)と下記の英文サマリー校閲費を入金するものとする。掲載料は2年ごとに見直す。

なお掲載年まで(掲載年を含む)の会費の入金を、掲載の必要条件とする。入金が確認されない場合は投稿原稿を受け付ない。英文サマリーの校閲(編集委員会で一括して業者に委託)については、和文論文の掲載を許された者から、別途一律2,500円を徴収する。

掲載料	4頁以下	3万円	5頁	4万円	6頁	5万円
-----	------	-----	----	-----	----	-----

2. 大会前提出原稿

投稿者は大会個別報告の1週間前(1週間前が日曜である場合にはその前日)(消印有効)までに、

投稿を前提とした原稿(大会前提出原稿)を個別報告座長と編集委員会に別々に郵送しなければならない(電子メールでの提出は認めない。また、消印有効期限を過ぎた原稿はいかなる理由があっても受け付けない。事務局では、個別報告座長への転送はしないので、座長の所属を学会 HP 等で確認の上、各自で座長の所属先に郵送すること)。そして、投稿者は、この大会前提出原稿に基づいて個別報告を行うことが求められる。

なお、大会前提出原稿は、図表を含め 12,000 字以内(英文の場合は概ね 5,000 単語)で作成する必要があるが、書式はこの段階では自由であり、サマリーも不要である(この段階では以下の 3. ～ 6. の要領には必ずしも準ずる必要はない)。

3. 投稿原稿の作成

投稿原稿は、報告時の議論(特に座長コメント)を十分に踏まえて、以下の 4. ～ 6. の要領に従って作成すること。また、原稿は、ワープロソフトを使用して作成し、図表とともに 3 部(ただし 2 部は複写でよい)のハードコピーを提出しなければならない。なお、それらを保存したフロッピーディスクまたは CD も同時に提出する必要がある(使用ソフトは自由だが、Word や一太郎を用いない場合には、Word ファイル、一太郎ファイルのいずれかの形式に変換の上でフロッピーディスクまたは CD に保存すること)。ファイル名は、「報告番号」(大会時のプログラムに記載)とすること(例: 報告番号が 2-3 ならば、ファイル名は、2-3.doc、2-3.docx または 2-3.jtd)。

4. 本文・サマリーの作成方法

(1) 原稿はすべて横書きとし、和文論文については新かなづかいとし、特殊な用語以外は当用漢字を使用すること。文章を段組(1 頁あたり 1 行 23 文字(英文の場合は概ね 6 ～ 10 単語)×43 行×2 段)にし、サマリーと図表を含めて 6 頁以内に収まることを確認した上で提出すること(7 頁以上となることが明らかな原稿は受け付けない)。「概算上は 6 頁以内であったにも関わらず、実際の組版の結果 6 頁を超過した」場合に限って 7 頁を認めることがあるが、その場合の掲載料は 6 万円とする。そのような事態にならないように余裕を見込んで頁数の概算を行うこと。なお、過度に縮小された図表については、可読性の観点から編集委員会の判断で拡大する場合があるので、図表の過度の縮小を前提とした頁数の概算は行わないこと。

(2) 和文論文の場合、英文タイトル・英文著者名・英文所属と 150 単語以内の英文サマリーを原稿内の所定の位置に記載すること(所定の位置については当年度の 6 月号・9 月号に掲載の個別報告論文を参照)。なお、英文サマリーは 6 頁の制限内に含まれる。英文サマリーが不備である和文論文の原稿は受け付けない。さらに、英文タイトルと英文サマリーを抜き出したテキストファイルを作成し(ファイル名は、「summary + 報告番号」とすること。例: 報告番号が 2-3 ならば、ファイル名は、summay2-3.txt)、原稿ファイルを収録したフロッピーディスクまたは CD に同時に保存すること。

(3) 英文論文の場合、和文タイトル・和文著者名・和文所属名と 400 文字以内の和文サマリーを原稿内の所定の位置に記載すること(所定の位置については当年度の 6 月号・9 月号に掲載の

個別報告論文を参照)。なお、和文サマリーは6頁の制限内に含まれる。和文サマリーが不備である英文論文の原稿は受け付けない。

5. 図表の作成 方法

図、表は例えば、図1、表1 (Fig. 1, Table 1) と表示すること。図はかならず正確、明瞭に描き、その際、図の説明や記号等を付記すること。なお図、表は挿入場所の欄外に朱書きで明記し、原稿の所要箇所に貼りつけること。表については、後で修正が可能なように、画像データやPDFデータには変換しない。

6. 注・引用文献等の記載方法

- (1) 論文構成は、節〔1. , 2. , ...〕, 中節〔(1), (2), ...〕, 小節〔(1), (2), ...〕の順での区別を原則とする。
- (2) 句読点はコンマとピリオド、単位は%, kg, ha などの略号であらわすこと。
- (3) 注および引用・参考文献は原稿末尾に一括して記載すること。参考文献は、必要最小限にとどめること。
- (4) 引用文献は注記を原則とし、以下の要領による。
 - 1) 邦文の場合
 - a. 著者名『書名』(シリーズ名), 出版社, 出版年(奥付けによる), ページ.
 - b. 執筆者名「論文名」, 編著者名『書名』(シリーズ名), 出版社, 出版年, ページ.
 - c. 執筆者名「論文名」, 『雑誌名』巻号(年月), ページ.
 - 2) 欧文の場合
 - a. 名頭文字. 姓, 書名(出版地: 出版社, 出版年), p. (または pp.)
 - b. 名頭文字. 姓, “論文名”, 雑誌名, 巻号(月, 年), p. (または pp.)

7. 審 査

常任編集委員会が定める所定期日(個別報告希望者に別途文書で通知する)内に受け付けたもののみを対象とし、審査員による1回目の審査、常任編集委員による2回目の審査を経て、最終的には常任編集委員会が採否を決定する。

8. 著者校正

著者校正を1回行う。その際、印刷上の誤り以外の字句修正、あるいは原稿になかった字句の挿入および図表の修正は認めない。

9. 掲載号について

大会個別報告論文は、大会翌年度の『農林業問題研究』6月号あるいは9月号に掲載される。

10. 論文等の公開

掲載論文等は、インターネット上で公開することがある。

11. 投稿原稿の提出

提出書類(「投稿カード」,「大会個別報告掲載申込書」,「二重投稿調査書」)に必要事項を記入した上で,投稿原稿を,別途通知する期限内(消印有効)に,下記の提出先に郵送すること。また,提出封筒の表に「大会個別報告論文原稿」と朱書きすること。消印有効期限を過ぎた原稿はいかなる理由があっても受け付けない。

■ 投稿時の提出物一覧(和文論文の場合)

「投稿カード」 1部

「大会個別報告掲載申込書」 1部

「二重投稿調査書」 1部

原稿(図表のほか,英文タイトル・英文サマリー・英文著者名・英文所属名も貼り付ける) 3部

フロッピーディスクまたはCD(上記 のファイル,及び「 のファイルから英文タイトルと英文サマリーのみを抜き出したテキストファイル」の計2件を収録したもの) 1枚

■ 投稿時の提出物一覧(英文論文の場合)

～ 和文論文と同じ

原稿(図表のほか,和文タイトル・和文サマリー・和文著者名・和文所属名も貼り付ける) 3部

フロッピーディスクまたはCD(上記 のファイルを収録したもの) 1枚

- 投稿原稿提出先: (〒602-8048)京都市上京区下立売通小川東入る

中西印刷株式会社内 地域農林経済学会編集委員会

(平成 21 年 6 月 25 日改正)

個別報告に関する書類の送付先、問い合わせ先など。

(1) 個別報告の「申し込み」に関する問い合わせ先

企画担当理事(京都大学・福井清一: seifukui@kais.kyoto-u.ac.jp)

* 学会事務局では、問い合わせは受け付けておりません。

(2) 個別報告「大会前提出原稿」に関する問い合わせ先

編集委員長(京都府立大学 桂 明宏: katsura@kpu.ac.jp)まで。

* 学会事務局では、問い合わせは受け付けておりません。